4 バス業務標準化仕様に適合した機器開発・検証事業 | 株式会社みちのりホールディングス

プロジェクト概要

25年度のCOMmmmON事業において整理されたバス標準業務仕様に則り、既存の業務システムを業務標準モデルにて定義された技術仕様に沿って改修を行い、データ連携を行うための技術開発及び、実地での技術検証を行い、技術仕様の有用性を検証する。なお実地技術検証は実施主体社のみちのりHD傘下のバス会社の実営業所を対象に検証することを目指す。

課題

- 国内バス業界ではデジタル技術活用の遅れが顕著、結果として労働生産性やサービスの高度化が諸外国に比べて極めて遅れているが、背景には小規模事業者が多い業界構造と、パッケージ化されたERPが無く、各社に導入されるカスタマイズされた個別システムのつなぎこみを繰り返す大手事業者とシステム導入すら進まない多数の小規模事業者が存在することにある。

取組内容

- バス事業における主要な業務である、ダイヤ作成～運行管理に関連するシステムをバス業務標準化仕様に適合した技術開発をレシップ・工房社で行い、技術の有用性検証を関東自動車株式会社にて行う。開発した機器は、今後みちのりグループ内の他事業者に展開を模索、事業者間連携を目指す。
- 机上検討だけでなく実業務を実施する事業者（関東事業者株式会社）をフィールドに、実営業所での車両・データを用いて技術の有用性検証することで、KPIの具体性や有効性に対する検証の蓋然性を高める。
- 具体的には開発した機器から提供されるデータを用い、別事業や自費で実施予定の運行管理ダッシュボートや充電制御システム（EMS）でデータ活用できることを検証する。

事業要件

- 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上（標準化）

技術要件

- バス業務標準仕様書

効果

- 標準業務仕様にの実装によりデータ連携障壁の除去と連携工数の人的工数の削減を目指す。KPIは以下を想定。
- 対象とした業務の付加価値ベースで計算した労働生産性を改善する。（1997年→2017年労働生産性の世界各国の改善率との差分をもとに目標を試算）

事業実施自治体・エリア

栃木県宇都宮市

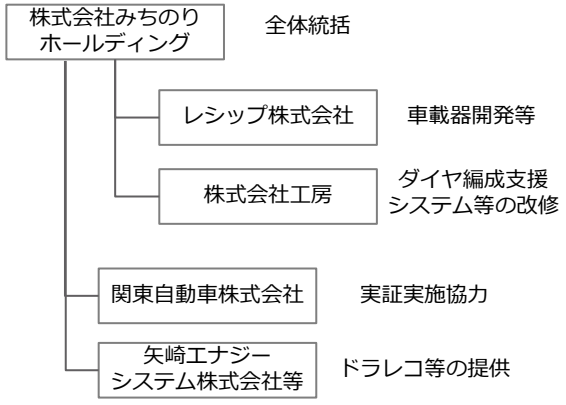
交通事業者

関東自動車株式会社

アプリ・システム等

- システム：ダイヤ編成支援システム、勤務計画作成システム、ICカード運賃箱、ドラレコ、電気バス車載器等
- データの取得方法：上記機器にて流通するデータをデータ連携PFに取り込む
- データの活用方法：取得データを基に交番編成や運行管理の高度化にて活用

座組



スケジュール

採択決定・事業開始：4月中旬
実証概要の確定：4月下旬
-技術開発
4～5月　技術適業詳細確定（要件定義）
6～12月　システム開発
10～12月　データ連携基盤と接続試験
-実証準備
7～9月　実証詳細の設計・データ準備
10～12月　機器設置・システム更新
1月　実証運行
2月　効果測定・とりまとめ

Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.